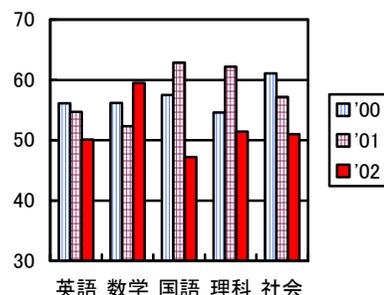


模試の示唆するもの

過去3年間の第1回全県模試 全県平均点推移

年度	英語	数学	国語	理科	社会	5科合計	内申点
'00	56.1	56.2	57.5	54.6	61.1	285.5	31.0
'01	54.7	52.3	62.9	62.2	57.2	289.4	30.9
'02	50.1	59.5	47.2	51.4	51.0	259.5	30.8



この時期当塾の中3は初めて5科目の模試を受けます。

英数だけでなく、理社国や内申点の重要性を認識してもらうことと、自分の志望校に入るための目標値を知ってもらうことが目的です。この時期県内のほとんどの中3生はまだ受験準備ができていませんから、例年平均点もそれほど高くはなりません。しかし、ここ3年間の全県平均点の推移を見ていて少し気になることがありました。

この模試は県下4万人弱いる受験生のうち、夏冬には1万人以上が参加する模試で、この春の時期でも例年6000名以上が参加している実績のある模試であり、内申点の平均から見ても愛知県の公立中学生の標準的なモデルとしてとらえることができます。

模試会社の担当の方から伺ったことですが、もともと模試は平均が50~60点になるように作成しているそうです。もちろん多少の変動はありますが、ここ3年間の平均点を見ても確かに多くはその範囲に入っているようにみえます。

しかし、この3年で英語・社会の2科目は年を追うごとに平均点が下がっています。基本的にこの2科目は単語や用語などを覚えることが必要です。また、国語の平均点も今年度は大きく下がっていますが、正答率が低いのは「漢字の読み書き」や「言葉の意味」の設問項目です。

一方数学は今年度平均点が上がっていますが、これは理由がはっきりしています。今までに中2で習っていた「相似」が中3に移行となったため、例年正答率が10%にも満たない図形分野の難問が無くなったことによります。

今回の傾向は、当塾の塾生の結果にも重要な影響を及ぼしています。

平均点が低いと、計算上高得点者の偏差値が異常に高くなります。その偏差値で志望校判定を行いますので、科目によっては60点台で偏差値が60を超えたり、内申点さえ届いていれば、400点くらいで菊里や旭丘レベルの高校の合格可能性が95%以上となります。例年この時期の判定結果に一喜一憂することは意味がないと塾生には言っていますが、あまり数字がよく出過ぎると、本人の課題点が見えなくなるのが心配です。

「学力低下の証拠はない」という人もいますが、これらこそが基礎学力の低下の現われとは言えないでしょうか。